（別紙様式１－１）

職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦について

文　部　科　学　大　臣　殿

令和5年4月1日

下記の専修学校の専門課程を職業実践専門課程として認定する課程として推薦します。

記

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
九州工科自動車専門学校	昭和28年11月10日	岩村　聡志	〒860-0816 熊本市中央区本荘町657番地 （電話）096-366-3862
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人 九州総合学院	昭和62年7月16日	川 越 宏 樹	〒860-0816 熊本市中央区本荘町657番地 （電話）096-366-3862

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
工業	工業専門課程	自動車整備科	平成6年文部科学省 告示第84号	無

学科の目的	「より高い人格、練磨された技能」を教育方針とし、めざましい技術革新の続く現代社会に十分対応できる人材の育成及び未来の自動車整備業界を担う人材の育成を目的とする。

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1984 時間	664 時間	0 時間	1320 時間	0 時間	0 時間
							単位時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内数）	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120人	108人	4人	11人	0人	11人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 定期試験　60点以上
長期休み	■学年始：4月1日～4月10日 ■夏　季：8月1日～8月31日 ■冬　季：12月25日～1月10日 ■学年末：3月20日～3月31日	卒業・進級条件	成績評定及び受講時間数
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応 保護者連携、面談対話	課外活動	■課外活動の種類 硬式野球部 ■サークル活動：　無

就職等の状況

■主な就職先、業界等（平成28年度卒業生）
自動車業界

■就職指導内容
マナー研修、履歴書の記入方法、企業説明会参加

■卒業者数	51	人
■就職希望者数	51	人
■就職者数	51	人
■就職率	100	%
■卒業者に占める就職者の割合	100	%

■その他
・進学者数：　0人

（令和４　年度卒業者に関する
令和5年5月1日　時点の情報）

主な学修成果（資格・検定等）

■国家資格・検定/その他・民間検定等
（令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報）

資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
ガス溶接	③	15人	15人
アーク溶接	③	8人	8人
危険物取扱資格	③	7人	5人
フォークリフト運転免許	③	10人	10人
中古自動車査定	③	16人	16人
ハイブリッド取扱者資格	③	51人	51人
損害保険募集人	③	51人	51人
2級自動車整備	②	50人	44人

※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。
①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
③その他（民間検定等）

■自由記述欄
（例）認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等

中途退学の現状

■中途退学者　5　名　■中退率　4 %
令和4年4月1日時点において、在学者111名（令和4年4月1日入学者を含む）
令和5年4月1日時点において、在学者108名（令和4年3月31日卒業者を含む）

■中途退学の主な理由
（例）学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等

学力不足、受講時間数不足、進路変更

■中退防止・中退者支援のための取組
（例）カウンセリング・再入学・転科の実施等

補習、職員の対話作戦、情報共有　保護者との連携、電話作戦、生活指導、自宅訪問

経済的支援制度

■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：　(有)・無
※有の場合、制度内容を記入
特待生入学試験制度、在校生対象特待生制度

■専門実践教育訓練給付：　給付(対)象・非給付対象
※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載
1名

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　有・(無)
※有の場合、例えば以下について任意記載
（評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）

当該学科のホームページURL

URL:http://kyukoo.ac.jp/

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

自動車整備科は、整備士の養成を教育目的とし、自動車業界等の企業関係者を教育課程編成委員会委員に選任し、最新の機械技術による整備業界の専門性の動向、ユーザー環境の新たな指向、整備技術実務に関する知識、技術について、企業関係者からの意見等を十分に反映して、必須科目以外の教科、実体社会に合致した授業内容・実技を中心とした方法の改善を図っていく方針である。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

別添「九州工科自動車専門学校 教育課程編成委員会（以下「委員会」という。）の位置付に関する規程のとおり、校長直轄の組織として委員会を設置し、カリキュラム等の改善・方法に対する意見を聴取、これを基に、校長以下、教務担当者でカリキュラムの内容、改善策について検討し、次年度に向け改善を行っていくこととしている。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
梅木　博文	九州産交整備株式会社　代表取締役社長	令和3年8月11日～令和5年8月10日（2年）	③
渡邉　幸也	熊本トヨペット株式会社　執行役員　管理本部長	令和3年8月11日～令和5年8月10日（2年）	③
堀内　義浩	熊本日野自動車株式会社　取締役　管理本部長	令和3年8月11日～令和5年8月10日（2年）	③
福山　敏章	株式会社スズキ自販熊本　管理部長	令和3年8月11日～令和5年8月10日（2年）	③
工藤　真二	熊本日産自動車株式会社　サービス部長	令和3年8月11日～令和5年8月10日（2年）	③
緒方　勝行	（一社）熊本県自動車整備振興会　専務理事	令和3年8月11日～令和5年8月10日（2年）	①

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年度内に2回以上開催する。

（開催日時）
第1回　令和5年9月上旬予定　12:00～15:00
第2回　令和6年2月頃予定

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

昨年度の教育課程編成委員会等の意見を次年度の授業内容、方法の改善、工夫に活用する。具体的にはエーミング作業（特定整備事業）学内で行い、ハイブリッド車講習、電気自動車等の講習等を企業現場や整備振興会実習工場において連携して実施していく。

（別途、以下の資料を提出）
＊　教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
＊　教育課程編成委員会等の規則
＊　教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由（推薦学科の専攻分野との関係等）※別紙様式３－１
＊　学校又は法人の組織図
＊　教育課程編成委員会等の開催記録

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
整備業界の技術的進歩について現場での実習、及び最新の整備技術の実習、特に技術進歩の著しいハイブリッド車、電気自動車等のエンジン構造、技術及び車体の基本等について学習する。
又、業界団体主催の基本研修に参加し、他校との切磋琢磨による学習度をアップさせる。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
各社の整備技術の実習、及エンジン構造等の各メーカーによる相違等に伴う実習内容の違い、特にハイブリッド車等の各社整備技術の習得を行う。
これらの実習の評価、出欠状況等を明確にし、企業評価表として学校にフィードバックしていく。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
自動車整備作業	エンジン点検・分解・組立・調整・検査	学生内定先企業、卒業生在籍企業
自動車整備作業	シャシ点検・分解・組立・調整・検査	学生内定先企業、卒業生在籍企業
自動車整備作業	電装点検・分解・組立・調整・検査	学生内定先企業、卒業生在籍企業
自動車整備作業	故障原因探求	学生内定先企業、卒業生在籍企業
自動車整備作業	自動車検査作業	学生内定先企業、卒業生在籍企業

（別途、以下の資料を提出）
＊　企業等との連携に関する協定書等や講師契約書（本人の同意書及び企業等の承諾書）等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

・現在の整備業界の動向、新技術開発等による各メーカー別の技術研修、電気自動車等の構造、装備、車体の研修及び業界団体主催の技術講習会等への参加
・専各連、文科省、全国自動車整備専門学校協会(以下JAMCAという)等主催による一般教養及び専門学科、技術の研修への参加

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等
・電気自動車等の低公害車整備の人材育成のための文科省認可による教育プログラムの開発
・全国自動車整備専門学校協会(以下JAMCAという)主催の経営研究会(内容、専門学校のおかれている立場、教職員夏季研修会動向、新技術・車両診断についての研修)
・国土交通省 「自動車整備・検査行政の現状と今後の取り組み」研修

②指導力の修得・向上のための研修等
・ 業界団体主催　教育担当者及び整備主任者研修
・本校内における模擬公開授業及び評価実施

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等
・先端技術(ハイブリッドやEVカー・クリーンディーゼル等)を学ぶために各ディーラーと連携し研修を実施する、又業界団体主催の研修への参加。
・国土交通省主催の研修へ計画的に参加。

②指導力の修得・向上のための研修等
・授業研究(公開授業)を実施して質の向上を図る。
・特別支援教育研修を受講させ、生徒理解を図る。

（別途、以下の資料を提出）
＊　研修等に係る諸規程
＊　研修等の実績（推薦年度の前年度における実績）
＊　研修等の計画（推薦年度における計画）

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

本年度より自己点検・評価を職員が一体となって取り組み、自ら学校運営、教育活動を改善していくとともに、特に、本校と関連の深い企業等の関係者、卒業生、業界団体等からなる学校関係者評価委員会を設置して評価を実施し、公表するとともに、この評価に沿った改善を図っていくこととする。また、これらの意見を反映し、学校側の意向に沿ったものに偏りがちな学校運営や教育内容から、真に社会が求める職業に必要な実践的かつ専門的な教育を行うことを第一義とし、生徒、保護者の意向にも十分配慮した教育内容及び学校運営を目指す。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	学校経営
（2）学校運営	学校経営
（3）教育活動	教務
（4）学修成果	教務
（5）学生支援	進路支援
（6）教育環境	事務部
（7）学生の受入れ募集	事務部
（8）財務	学校運営
（9）法令等の遵守	学校運営

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

令和4年9月、学校関係者評価委員会を開催し、評価委員の意見を聴取した。更に、令和5年2月、学校関係者評価委員会を開催予定である。これらの意見を令和5年度における教育活動、その他、学校運営の改善等に活用することを令和5年度中に組織として決定することとしている。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
梅木　博文	九州産交整備株式会社　代表取締役社長	令和3年8月11日～令和5年8月10日（2年）	企業等委員
渡邉　幸也	熊本トヨペット株式会社　執行役員　管理本部長	令和3年8月11日～令和5年8月10日（2年）	企業等委員
堀内　義浩	熊本日野自動車株式会社　取締役　管理本部長	令和3年8月11日～令和5年8月10日（2年）	企業等委員
福山　敏章	株式会社スズキ自販熊本　管理部長	令和3年8月11日～令和5年8月10日（2年）	企業等委員
工藤　真二	熊本日産自動車株式会社　サービス部長	令和3年8月11日～令和5年8月10日（2年）	企業等委員
緒方　勝行	（一社）熊本県自動車整備振興会　専務理事	令和3年8月11日～令和5年8月10日（2年）	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　）
URL:http://kyukoo.ac.jp/

（別途、以下の資料を提出）

＊　学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書（推薦学科の専攻分野との関係等）※別紙様式３－２
＊　自己評価結果公開資料
＊　学校関係者評価結果公開資料（自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書）

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
今年度は、学科の内容、学生支援、学生納付金、学校評価等については、ホームページで公開していくこととする。
今後もホームページを充実し、情報提供を積極的に行い、学校関係者の理解、評価を促進し、適切な学習機会の選択に資するとともに、社会に対する説明責任、学校関係者からの意見を聴取しながら、教育の質の更なる向上を図っていくこととする。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	学校概要
（2）各学科等の教育	学科・コースの特色
（3）教職員	学校概要
（4）キャリア教育・実践的職業教育	就職支援・実績
（5）様々な教育活動・教育環境	年間スケジュール
（6）学生の生活支援	学校概要
（7）学生納付金・修学支援	入学案内
（8）学校の財務	学校の財務の状況
（9）学校評価	令和4年度自己点検・評価、学校関係者評価

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
URL:http://kyukoo.ac.jp/

（別途、以下の資料を提出）
＊　情報提供している資料

事務担当責任者	フリガナ	ナカヤマ　ケイセイ	所属部署	事業推進部
	氏名	中山　恵晴	役職名	主任
	所在地	〒860-0816 熊本市中央区本荘町657番地		
	TEL	096-366-3862	FAX	096-364-8910
	E-mail	kozuma@kyukoo.ac.jp		

（備考）
・用紙の大きさは、日本工業規格A4とする（別紙様式１－２、２－１、２－２、３－１、３－２、４、５、６、7についても同じ。）。

（別紙様式１－２）

授業科目等の概要

（工業専門課程自動車整備科）令和5年年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自動車工学	ガソリンエンジン構造・性能	1前	33		○			○		○		
○			自動車工学	ガソリンエンジン構造・性能	2前	44		○			○		○		
○			自動車工学	シャシ構造・性能	1前	33		○			○		○		
○			自動車工学	シャシ構造・性能	2前	44		○			○		○		
○			自動車工学	ジーゼルエンジン構造・性能	1	33		○			○		○		
○			自動車工学	電装品構造・性能	1	33		○			○		○		
○			自動車工学	電装品構造・性能	2前	17		○			○		○		
○			自動車工学	自動車の力学・数学	1	33		○			○			○	
○			自動車工学	自動車の力学・数学	2	33		○			○			○	
合計				科目	単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	１学年の学期区分	期
	１学期の授業期間	週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

（別紙様式１－２）

授業科目等の概要

（工業専門課程自動車整備科）令和5年年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自動車工学	電気電子理論	1	33		○			○			○	
○			自動車工学	自動車材料	1前	17		○			○			○	
○			自動車工学	燃料・潤滑剤	1後	17		○			○		○		
○			自動車工学	図面	1後	17		○			○			○	
○			自動車整備	ガソリンエンジン整備	1後	33		○			○		○		
○			自動車整備	ガソリンエンジン整備	2後	22		○			○		○		
○			自動車整備	シャシ整備	1後	33		○			○		○		
○			自動車整備	シャシ整備	2後	22		○			○		○		
○			自動車整備	ジーゼルエンジン整備	2	28		○			○		○		
合計				科目	単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	１学年の学期区分	期
	１学期の授業期間	週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

（別紙様式１－２）

授業科目等の概要

（工業専門課程自動車整備科）令和5年年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自動車整備	電装品整備	2後	11		○			○		○		
○			自動車整備	故障原因探求	2	50		○			○		○		
○			機器の取扱・構造	整備作業機器	1前	9		○			○		○		
○			機器の取扱・構造	測定機器	1前	8		○			○		○		
○			機器の取扱・構造	検査機器	2前	17		○			○		○		
○			自動車検査	自動車検査	2後	22		○			○		○		
○			自動車整備に関する法規	自動車整備に関する法規	2前	22		○			○		○		
○			工作作業	手仕上げ作業	1前	11				○	○		○	○	
○			工作作業	機械工作	1前	11				○	○		○	○	
合計				科目	単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	１学年の学期区分	期
	１学期の授業期間	週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

（別紙様式１－２）

授業科目等の概要

（工業専門課程自動車整備科）令和5年年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			測定作業	基本測定	1前	44				○			○	○	
○			自動車整備作業	エンジン点検・分解・組立・調整・検査	1前	##				○			○	○	
○			自動車整備作業	エンジン点検・分解・組立・調整・検査	2前	##				○			○	○	○
○			自動車整備作業	シャシ点検・分解・組立・調整・検査	1後	##				○			○	○	
○			自動車整備作業	シャシ点検・分解・組立・調整・検査	2後	##				○			○	○	○
○			自動車整備作業	電装点検・分解・組立・調整・検査	1後	##				○			○	○	
○			自動車整備作業	電装点検・分解・組立・調整・検査	2後	##				○			○	○	○
○			自動車整備作業	故障原因探求	2後	77				○			○	○	○
○			自動車検査作業	自動車検査作業	2後	55				○			○	○	○
合計				9科目	1984単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評定及び受講時間数	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	33週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。